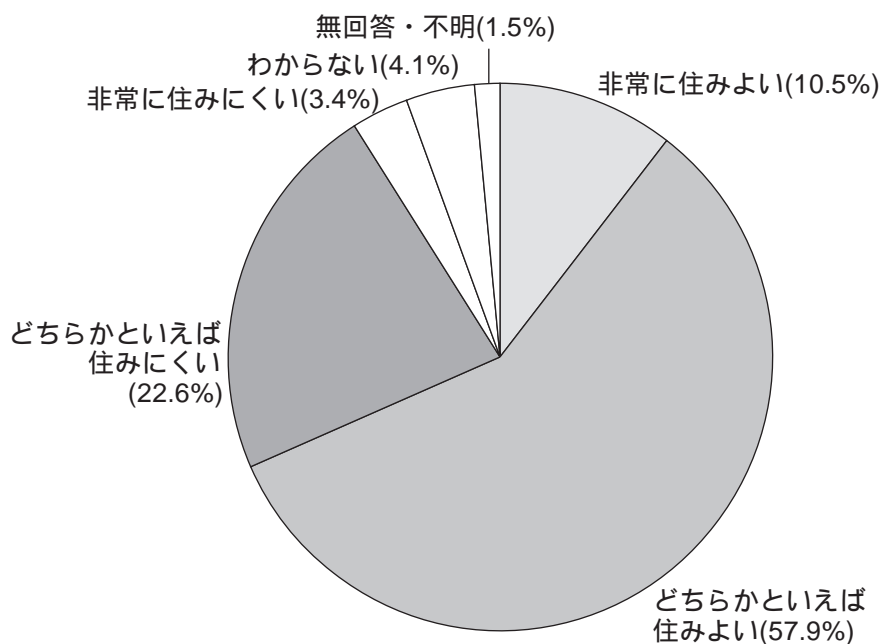


# 1 富里町での暮らしについて

7割近い回答者が「住みよい」と感じている

問1 あなたは、富里町を住みよいところだと思いますか。次の中から1つ選んでください。

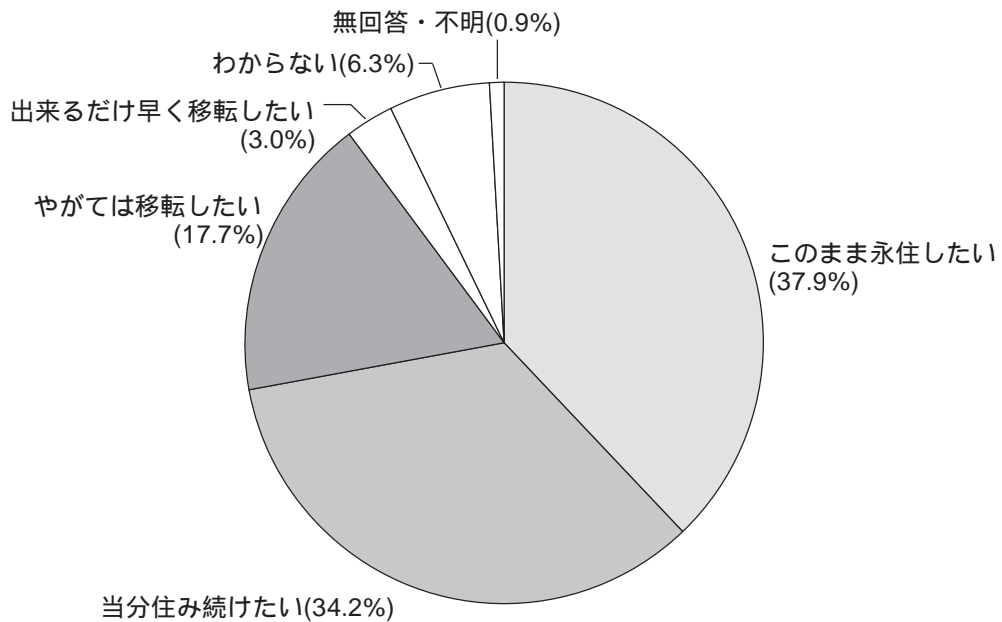


全体としてみると、回答者の68.4%が富里町を住みよいと感じている。住みよいと感じる人の割合は、年齢が高くなるほど、また居住年数が多くなるほど高くなる傾向がみられる。居住地別では、「浩養」や「富里第一」「七栄」「富里南」の小中学校区で住みよいと感じる人が7割を超えている。また職業別では農業の回答者で住みよいと感じる人が92.0%と最も多くなっている一方、学生の回答者の57.9%、パートの回答者の31.8%、主婦の回答者の31.0%が富里町を住みにくいとしている。

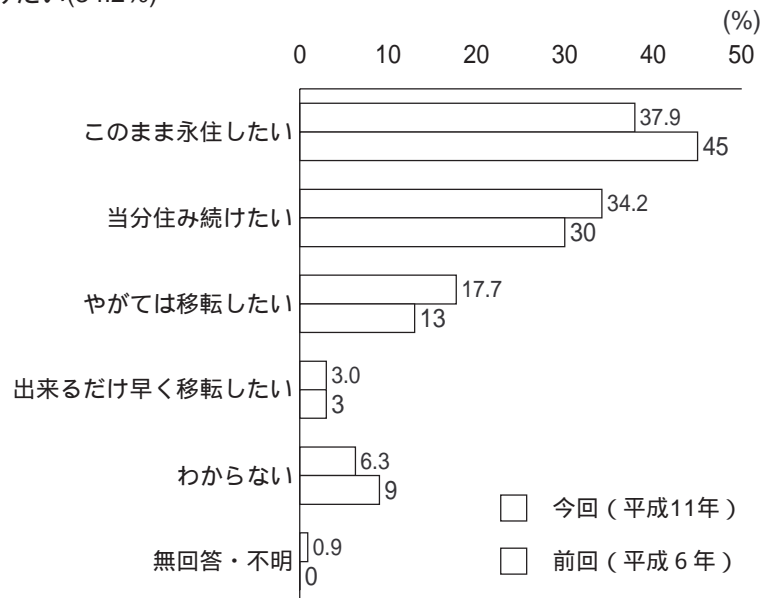
72%の回答者が「住み続けたい」と考えている

20代は45%、65歳以上は87%と年齢によって定住意識に大きなひらきが見られる。

問2 あなたは、これからも富里町に住んでいたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。



【前回との比較】

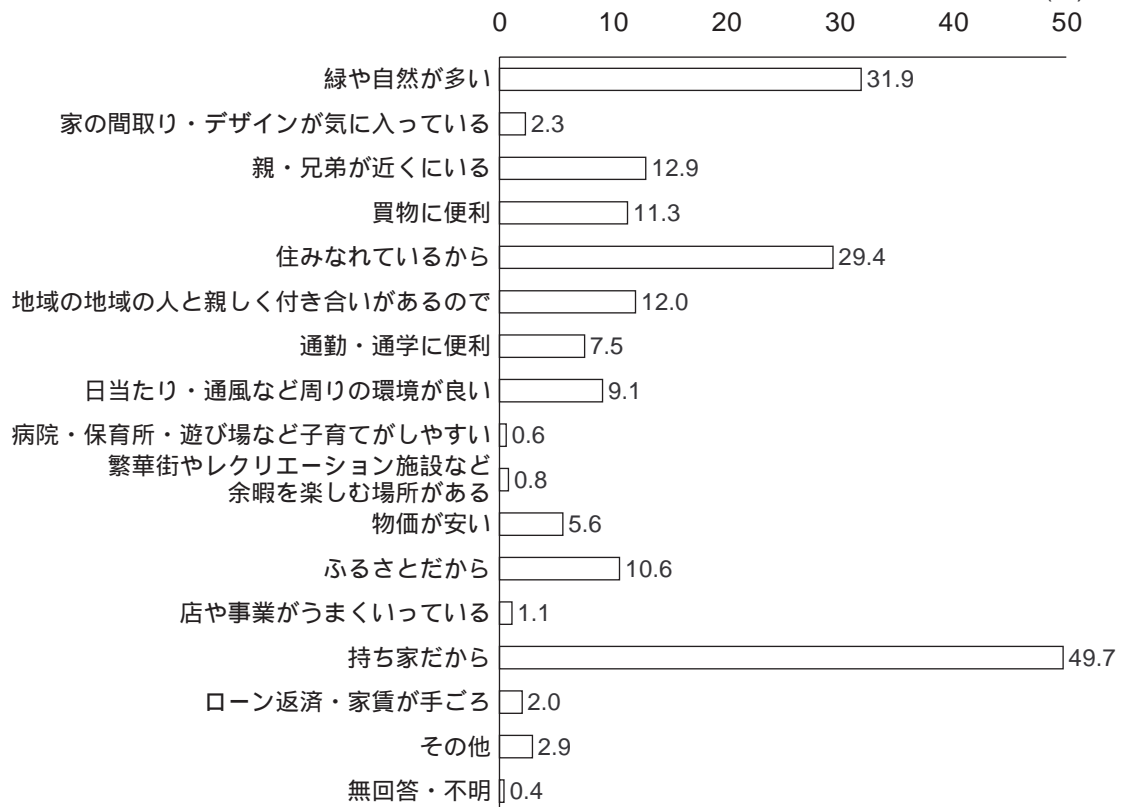


回答者の72.1%が富里町に住み続けたいとして。今回の結果を平成6年に実施した結果と比較すると、「このまま永住したい」、「当分住み続けたい」と答えた人はあわせて75%から72%へとやや減少している。

属性別にみると、年齢や居住年数が上がるにつれて定住意識が高まっていく傾向がある。また居住地別では、「浩養」や「富里第一」の小学校区で8割を超える人が永住もしくは当分住み続けたいとしている。

「持ち家だから」が最も多く、「緑や自然が多い」、「住み慣れているから」がこれに次いでいる

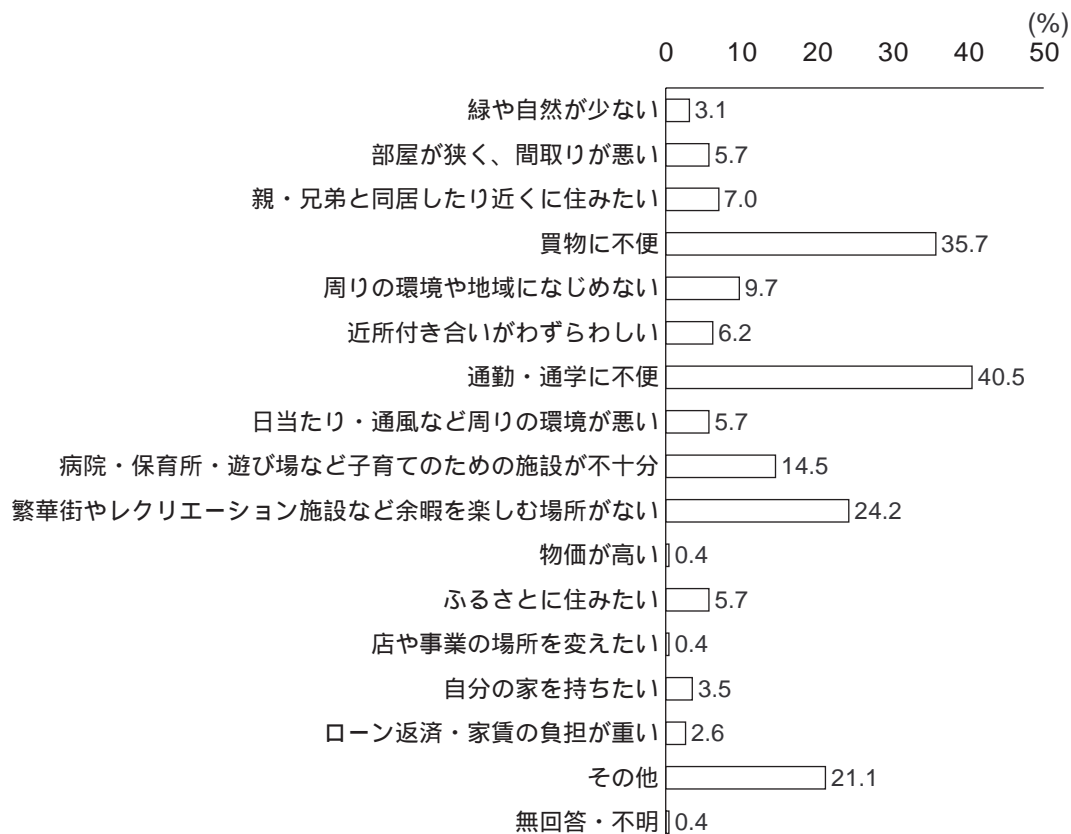
問3 問2で、「1.このまま永住したい」、「2.当分住み続けたい」と答えた方にのみうかがいます。住み続けたいと思う理由を、次の中から2つまで選んでください。(%)



このまま「永住したい」、「当分住み続けたい」とする回答者にその理由を聞いたところ、「持ち家だから」が49.7%と最も多く、次いで「緑や自然が多い」(31.9%)、「住み慣れているから」(29.4%)の順となった。持ち家であることを別にして、生活環境にかかわる事項についてみると、緑など自然のゆたかさや地縁・血縁のつながりを定住の理由としてあげる人が多くみられる。

## 通勤・通学や買物の不便を指摘する意見が多い。

問4 問2で、「3. やがては移転したい」、「4. 出来るだけ早く移転したい」と答えた方のみうかがいます。移転したいと思う理由を、次の中から2つまで選んでください。

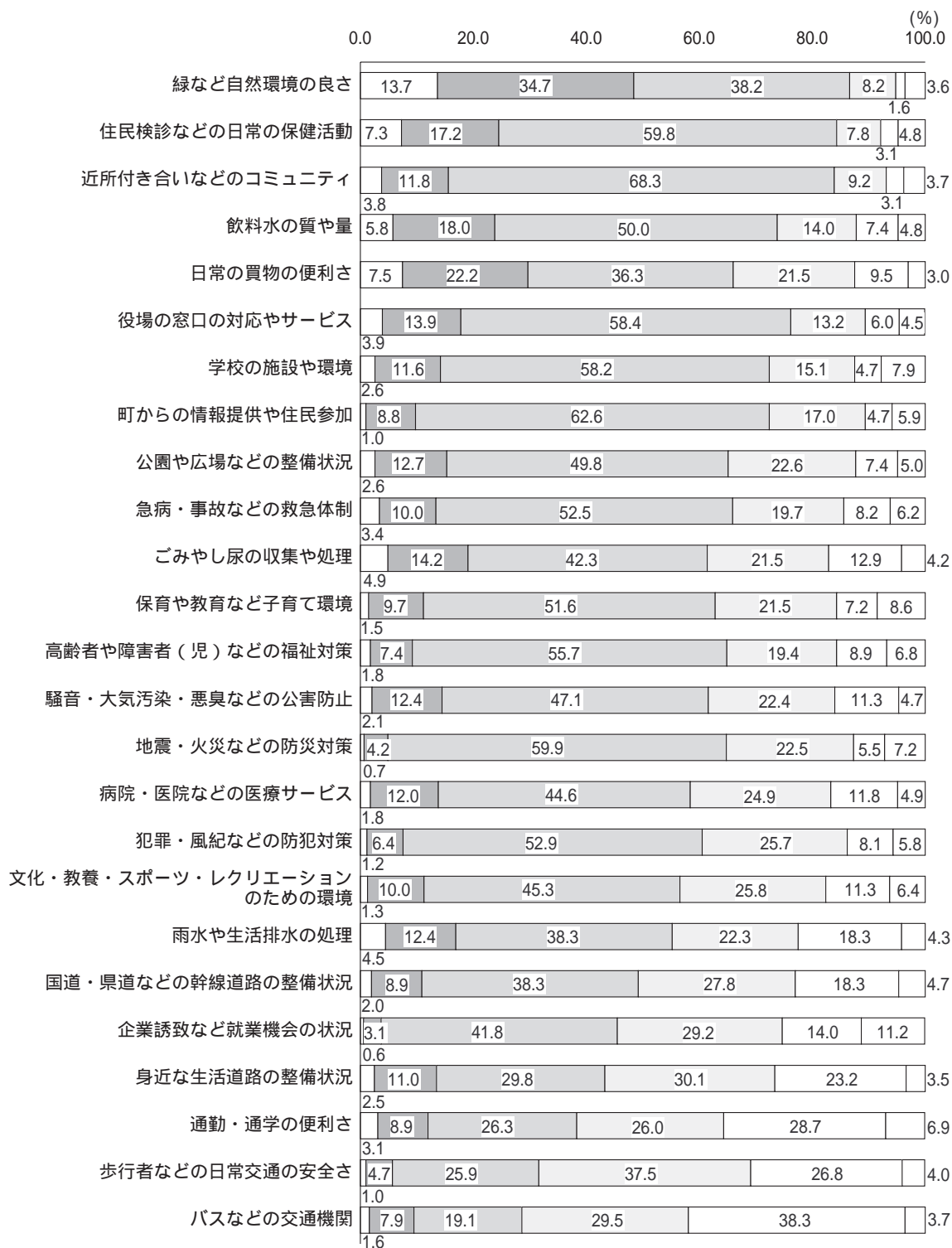


「やがては移転したい」、「できるだけ早く移転したい」とする回答者にその理由を聞いたところ、「通勤・通学に不便」が40.5%と最も多く、次いで「買物に不便」(35.7%)、「余暇を楽しむ場所がない」(24.2%)の順となった。通勤や通学のための交通条件の悪さやまちなぎわいの不足を理由にあげる人が多くみられる。

前回調査と同様、「バス」「交通安全」「通勤・通学」「生活道路」について不満が多い。

問5 あなたの住んでいる地域の生活環境について、どのように感じていますか。それぞれの項目について、1から5の数字を1つ選んでください。

□ 非常に満足 □ やや満足 □ 普通 □ やや不満 □ 非常に不満 □ 無回答・不明



地域の様々な生活環境の満足、不満足の状態について把握するため、全25項目に分けて5段階で評価を求めた。その中で、最も評価の高かった項目は「緑など自然環境の良さ」であり、逆に最も評価の低かった項目は「バスなどの交通機関」となった。

評価の高い上位5位は下表に示すとおりである。平成6年に実施した前回調査と比べると、最上位と最下位は変化していないことがわかる。

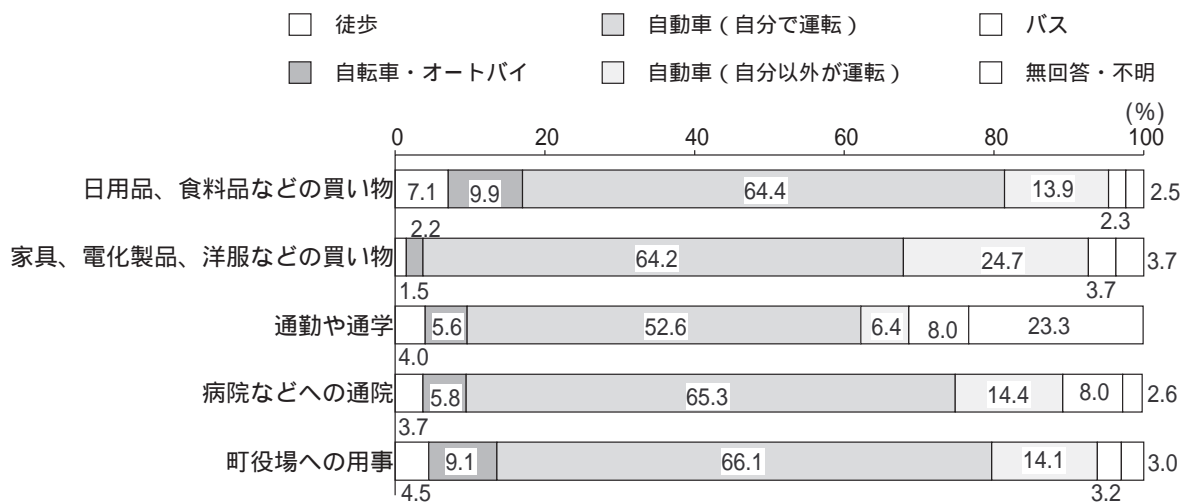
【時系列比較】

区分	前回（平成6年）		今回（平成11年）		
	項目	得点	項目	得点	
上位	1	自然環境の良さ	55.53	緑など自然環境の良さ	63.12
	2	住民検診など日常の保健活動	51.60	住民検診などの日常の保健活動	54.68
	3	役場の窓口の対応やサービス	47.47	近所付き合いなどのコミュニティ	51.04
	4	日常の買物の便利さ	46.83	飲料水の質や量	50.24
	5	し尿の収集や処理	45.06	日常の買物の便利さ	49.15
下位	1	バスなどの交通機関	23.71	バスなどの交通機関	25.31
	2	通勤・通学の便利さ	31.16	歩行者などの日常交通の安全さ	28.04
	3	身近な生活道路の整備状況	34.11	通勤・通学の便利さ	31.67
	4	病院・医院などの医療サービス	34.16	身近な生活道路の整備状況	34.30
	5	日常交通の安全さ	34.26	企業誘致など就業機会の状況	35.13

「非常に満足」を100点、「やや満足」を75点、「普通」を50点、「やや不満」を25点、「非常に不満」を0点とした場合の評価平均点数

## 「町役場」と「病院」については自動車利用が約8割と特に高い

問6 あなたは、次のような用事で出かける時、まず家からつかう交通手段の主なものは何ですか。アからオのすべての項目について1から5の数字を1つ選んでください。



買物や通勤・通学・通院、町役場への用事など、普段の生活で使う交通手段についてきいたところ、どれも車利用が圧倒的に多いことがわかった。特に、「町役場への用事」と「病院などへの通院」に車利用が多く、全体の約8割にのぼっている。

また、居住地別にみると、生活行動ごとの特徴が顕著にあらわれてくる。

日用品、食料品などの買物については、「洗心」や「浩養」、「根木名」の小学校区で9割を超える人が車利用と答えている。

また通勤や通学については、「根木名」で車利用が75.3%と最も多い一方、「日吉台」は49.0%と半分以下にとどまっている。

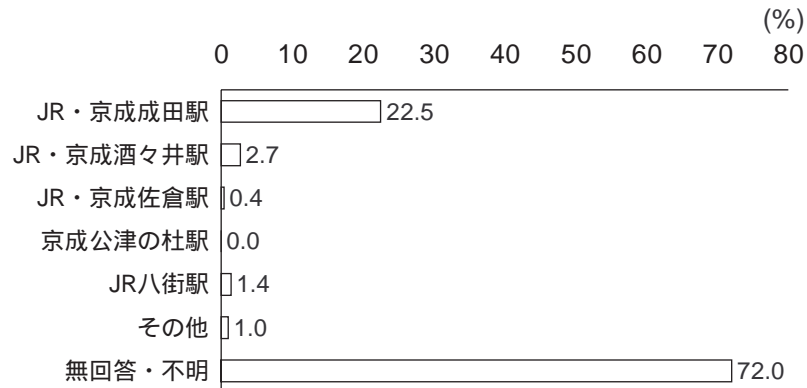
さらに病院などへの通院や町役場への用事については「洗心」や「浩養」、「根木名」で車利用者が特に多い結果となった。

全体としてみると、どの生活行動も、またどの居住地も車中心となっているのが特徴であるといえる。

一方、徒歩については「日吉台」で他地区よりやや利用割合が高いものの、徒歩利用が最も多い日用品、食料品などの買物についてみても全体の14.9%にとどまっている。

## J R・京成成田駅利用が圧倒的に多い

問7 通勤や通学で鉄道を利用している方にのみうかがいます。主に利用している駅は次のうちどれですか。 1つ選んでください。

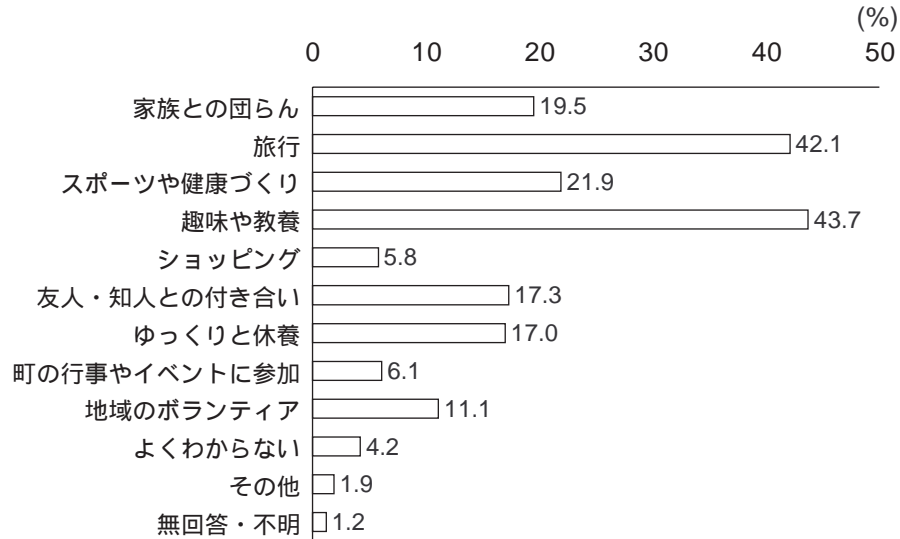


通勤や通学で利用している鉄道については、J R・京成成田駅が最も多い結果となった。また居住地区別にもほとんどの小学校区でJ R・京成成田駅が最多となっているが、「富里第一」については唯一、J R・京成・酒々井町が成田駅を上回っている。



「趣味や教養」が最も多く、「旅行」がこれに次いでいる

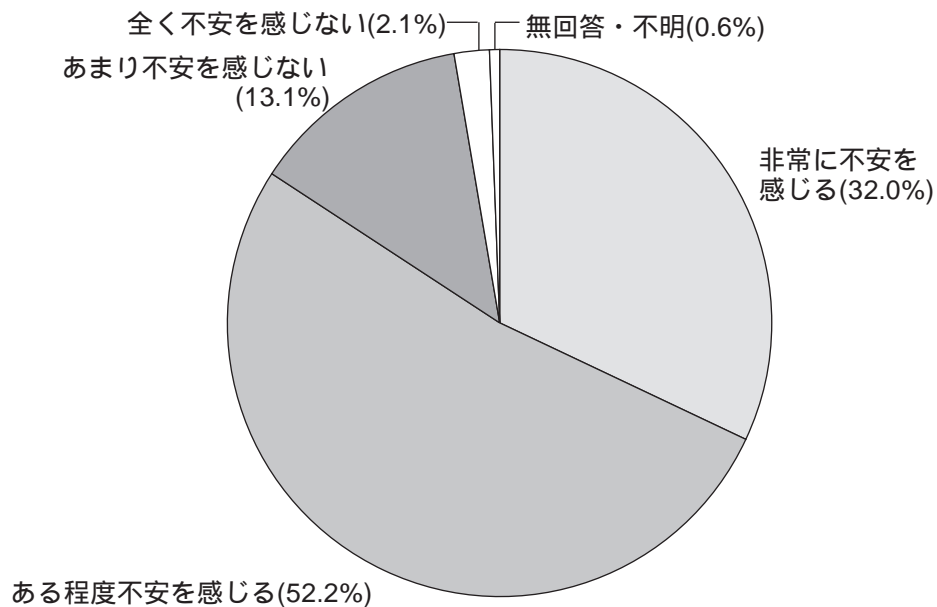
問8 将来、今よりも余暇時間が増えると考えられますが、あなたはどのようなことをして過ごしたいとお考えですか。次の中から2つまで選んでください。



余暇時間の過ごし方については、「趣味や教養」と「旅行」の2つが群を抜いて多くなっている。また年齢別の特徴をみると、30代と40代では「家族との団らん」、「スポーツや健康づくり」が、50代では「地域のボランティア活動」が、60代以上では「友人・知人とのつきあい」が相対的に高くなるという傾向がみられる。

## 回答者の84%が高齢期に不安を感じている

問9 あなたは高齢期の生活についてどのように感じますか。次の中から1つを選んでください。

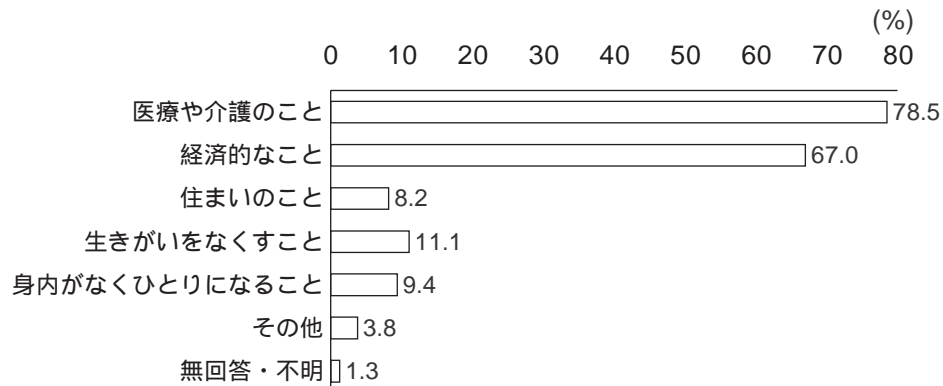


全体としてみると、回答者の84.2%が高齢期に不安を感じるとしている。

年齢別にみると、現在の高齢者よりも壮・中年層に不安を感じる層が多くなっている。特に不安を感じるとする割合が高いのは40代前半層であり、94.7%にのぼっている。

## 不安の中味は「医療や介護」と「経済的なこと」が大半を占める

問10 問9で、「1.非常に不安を感じる」、「2.ある程度不安を感じる」と答えた方にのみうかがいます。主にどのようなことが不安ですか。次の中から2つまで選んでください。



高齢期に不安を感じるとする回答者に、どのようなことに不安を感じるかについて聞いたところ、「医療や介護のこと」と「経済的なこと」が圧倒的に多数を占める結果となった。

年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて「経済的なこと」と「住まいのこと」が高くなる傾向があり、20代から30代前半までは、「経済的なこと」が不安の筆頭に上げられている。

また、年齢が高くなるほど「生きがい」に不安を感じる層が増える傾向があり、70代前半では20%を越えている。